

[1]ホームページに戻る

[2]目次に戻る

アイヌ語新聞「アイヌタイムズ」の記事「ミソサザイのお話」

(第33号、2004年(平成17年)3月31日(木)アイヌ語ペンクラブ発行 5～7ページ引用)

(第33号日本語版、6月 日()アイヌ語ペンクラブ発行 ～ ページ引用)

ミソサザイのお話

(アイヌ語)

cakcak kamuy oruspe

チャクチャク カムイ オルシペ

[Esperanto]

La troglodito

ミソサザイの巣は車置き場の中にありました。

(アイヌ語)

garêzi onnay ta, cakcak set an.

ガレージ オンナイ タ、チャクチャク セツ アン。

[Esperanto]

Troglodito havis sian neston en la remizo.

ある日のこと、親鳥二羽とも、子供たちのために食べ物を取ってこようと外へ飛び立ち、小さな雛鳥だけが巣に残されました。

(アイヌ語)

sinean to ta, cakcak mici cakcak hapo turano, iramante wa powtari
a=ere kusu hopunpa wa paye hine, ne powtari set or un a=hoppa ruwe ne.

シネアント タ、チャクチャク ミチ チャクチャク ハポ トウラノ、イラマン

テ ワ ポウタリ アエレクス ホプンパ ワ パイエ ヒネ、ネ ポウタリ セツ

オロ ウン アホッパ ルウェ ネ。

[Esperanto]

Iam la paro ambaŭ flugis eksteren por kapti manĝaĵojn por la idoj,
lasitaj solaj en la nesto.

しばらくして、ミソサザイの父親が巣に戻ってきました。

(アイヌ語)

iruka an kor, kor mici set or un hosipi wa ek akusu, powtari nep ka sitoma noyne siran.

イルカ アン コロ、コロ ミチ セトルン ホシピ ワ エク アクス、ポウタリ
ネッ カ シトマ ノイネ シラン。

[Esperanto]

Baldaŭ la troglodita patro revenis hejmen.

「なにがあつたんだ？」と父親は聞きました。「子供たち、おまえたちに悪い
ことをしたのは、誰なんだ？どうしてそんなに怖がっているんだ？」

(アイヌ語)

"hemanta an? ku=kor sion, hunna eci=koyki ruwe an? hemanta kusu ene eci=sitoma hawe?" sekor hawean.

"ヘマンタ アン？ クコロ シオン、フンナ エチコイキ ルウエ アン？ ヘマン
タ クス エネ エチシトマ ハウエ？" セコロ ハウエアン。

[Esperanto]

"Kio okazis ĉi tie?" li diris. "Kiu minacis vin, infanoj? Estas vi ĉiuj timigitaj!"

「ああ、パパ」と子供たちは言いました。「大きなおばけみたいなものが、今
さっきやってきたんだ。すごく獰猛で恐ろしい顔をしてたんだ！おおきな眼で
僕たちの巣を睨んだんだよ。ぼくたち、とっても怖かった！」

(アイヌ語)

powtari ene haweoka hi: "ho, ku=mici, poro kamiasi koraci an pe esir ek siri ne. sonno niwen pe ne wa nanuhu astoma p ne. poro sikihi maka wa un=enucisiske wa an na. iyohay sitomare!" sekor haweoka.

ポウタリ エネ ハウエオカ ヒ: "ホ、クミチ、ポロ カミアシ コラチ アン ペ
エシリ エク シリ ネ。ソンノ ニウエン ペ ネ ワ ナヌフ アシトマ ッ[°]ネ。
ポロ シキヒ マカ ワ ウネヌチシシケ ワ アン ナ。イヨハイ シトマレ!" セ
コロ ハウエオカ。

[Esperanto]

"Ho, paĉjo," ili diris, "ĵus venis granda fantomaĉulo. Ŝajnas, ke li estas tre sovaĝa kaj terura! Li fiksrigardis nian neston per siaj okulegoj. Ni vere timis tion!"

「そうか、わかった、そいつはどこに行ったんだ？」と父親が言いました。

(アイヌ語)

"ohayne un, ne hemanta hunak un arpa?" sekor kor mici hawean.

"オハイネ ウン、ネ ヘマンタ フナク ウン アラパ？" セコロ コロ ミチ ハ
ウエアン。

[Esperanto]

“Mi komprenas,” la troglodita patro diris, “Kien li iris?”

「ええと、あっちの方へ行った」と子供たちが答えました。

(アイヌ語)

"tooni un arpa." sekor poho hawean.

"トオニ ウン アラパ。" セコロ ポホ ハウエアン。

[Esperanto]

“Nu” ili diris, “li iris for tiudirekten.”

「待っておいで」と父親が言いました。「そいつを追いかけて行ってやる。心配しなくていいんだよ、子供たち、お父さんがそいつをつかまえてやるから」父親はそう言って、飛び立って行きました。

(アイヌ語)

"en=tere wa oka yan, kese k=anpa kusu ne. nep ka eci=eranak ka somo ki no oka yan. ku=kor sion ne hemanta k=oskoni wa ku=koyki kusu ne na." sekor kor mici hawean kor, hopuni wa arpa.

"エンテレ ワ オカ ヤン、ケセ カンパ クス ネ。ネプ° カ エチエラナク カ ソモ キ ノ オカ ヤン。クコロ シオン ネ ヘマンタ コシコニ ワ クコイキ クス ネ ナ。" セコロ コロ ミチ ハウエアン コロ、ホプニ ワ アラパ。

[Esperanto]

“Atendu!” la troglodita patro diris, “Mi volas serĉi lin. Ne plu ĝenu vin, infanoj. Mi volas kapti lin.” Post tio li flugis post li.

親鳥が道の曲がり角まで来てみると、そこを歩いているのはライオンでした。

(アイヌ語)

cakcak mici ru sittok or pakno hopuni wa arpa akusu, toan ta apkas pe raion ne siri ne.

チャクチャク ミチル シットク オロ パクノ ホプニ ワ アラパ アクス、ト アンタ アッ°カシ ペ ライオン ネ シリ ネ。

[Esperanto]

Kiam li venis ĉirkaŭ la kurbiĝo, troviĝis leono, kiu marŝis laŭ la vojo.

ミソサザイはライオンを怖れませんでした。ライオンの背中に舞い降りて、「何の用があつてうちに来て子供たちを怖がらせたりしたんだ?!」とライオンを叱り始めました。

(アイヌ語)

korka, ne cakcak rion ne yakka sitoma ka somo ki. ne raion setur ka ta ran hine, "hemanta ne kusu k=unihi un e=ek wa ku=powtari e=sitomare ruwe?" sekor hawekoyki ruwe ne.

コロカ、ネ チャクチャク リオン ネ ヤッカ シトマ カ ソモ キ。ネ ライオン セトゥル カ タ ラン ヒネ、"ヘマンタ ネ クス クニヒ ウン エエク ワ クポウタリ エシトマレ ルウエ?" セコロ ハウエコイキ ルウエ ネ。

[Esperanto]

Sed la troglodito ne timis. Li surdorsigis al la leono kaj ekriproĉis lin. "Kial vi venis mian hejmon," li diris, "kaj teruri miajn infanojn?!"

ライオンは知らぬ顔をして歩き続けました。

(アイヌ語)

ne raion anak kosiramuysamte kor apkas a apkas a.

ネ ライオン アナク コシラムイサムテ コロ アッカシ ア アッカシ ア。

[Esperanto]

La leono ne atentis ĝin kaj marŝadis.

そこでこの小さな鼻の柱の強い鳥は、ライオンを一層激しくなじりました。「おまえはこんなところに来る理由はないんだ、わかったか!もし、またやってくるようなことがあったら、目にもものを見せてやる!こんなことは本当はしたくないんだが」と言いながら、親鳥は片脚を挙げました。「それでも、またやってくるなら、この脚であつという間におまえの背中をへし折ってやる!」そう言って親鳥は巣に飛んで帰りました。

(アイヌ語)

ne cakcak pon korka rametokkor pe ne kusu, po hene yupkeno hawekoyki hawe ene an hi: "teor un e=ek kuni p ka somo ne. e=eraman ya? suy e=ek katu an yakun, yupke no eci=koyki kusu ne na! ene ku=ki hi ka k=etoranne korka..." sekor hawean kor, oatcikiri rikinka kor, "neun ne yakka suy e=ek yakun, ku=cikiri ani nani e=ikkewe ku=kaye kusu ne na!" sekor hawean kor, ne cakcak set or un hopuni wa hosipi ruwe ne.

ネ チャクチャク ポン コロカ ラメトッコロ ペ ネ クス、ポ ヘネ ユッケノ ハウエコイキ ハウエ エネ アン ヒ: "テオロ ウン エエク クニッ カ ソモ ネ。エエラマン ヤ? スイ エエク カトゥ アン ヤクン、ユッケ ノ エチコイ キクスネ ナ! エネ クキヒ カケトランネ コロカ..." セコロ ハウエ アン コロ、オアッチキリ リキンカ コロ、"ネウン ネ ヤッカ スイ エエク ヤクン、クチキリ アニ ナニ エイッケウエ クカイエ クスネ ナ!" セコロ ハウエアン コロ、ネ チャクチャク セッ オロ ウン ホプニ ワ ホシピ ルウエ ネ。

[Esperanto]

Pro tio la ĝena uleto riproĉis lin pli sovaĝe. "Vi havas nenian

rezonon esti tie, mi diras al vi! Kaj se vi venos refoje,” li diris,
“nu, do vi sciiĝos! Mi vere ne volas fari tion,” li diris kaj fine
levis sian unu kruron, “sed tiam mi tuj rompos vian dorson per mia
kruro!” Post tio li flugis reen al sia nesto.

「さあさあ、子供たち、もう大丈夫だよ。あいつにはよく言い聞かせてやった
からね。もう戻ってくることはないよ。」と父親は言いました。

(アイヌ語)

"easir, ku=kor sion, tane pirka wa. pirkano ku=nure ruwe ne kusu, suy
ek ka somo ki nankor." sekor hawean. tane pirka.

"エアシリ、クコロ シオン、タネ ピリカワ。ピリカノクヌレ ルウェ ネク
ス、スイ エク カ ツモ キ ナンコロ。" セコロ ハウエア。 タネ ピリカ。

[Esperanto]

“Jen estu trankvilaj, infanoj,” li diris, “mi sincere admonis lin.
Li neniam revenos.”

出典

[3]<http://www.sassisch.net/rhahn/low-saxon/ls-story.html>

このページには、次のようにあります。

Main source: Peter Martens, "Probleme der Rechtschreibung von
niederdeutschen Vokalen und Diphthongen," pp. 101-189 in Heinrich
Kahl, ed., 75 Jahre Fehrs-Gilde (1916-1991):

Jubilaumsschrift der Fehrs-Gilde, Hamburg (Germany): 1991.

地域言語の低地ザクセン(サクソン)語(低地ドイツ語:オランダ語を含む北
ドイツ方言)の民話:「ミソサザイ」

ヨーロッパ評議会の「少数・地域言語のためのヨーロッパ憲章」を受け入れる
際の声明(1998年1月23日)において、ドイツ政府は、北ドイツ一帯に広く分
布する低地ドイツ語を独自の「地域言語」として認知しています。

[Esperanto]

Popola rakonto de la loka lingvo Platdiĉa (Malsupra Germanlingvo):
"La troglodito ”

En la deklaro (en la 23-a de januaro 1998) ĉe akcepti 'Eŭropan
Ĉarton por plimalgranda kaj loka lingvo' de Eŭropa Konsilantaro, la
registaro Germanio rekonis la lingvon Platdiĉan uzatan vaste en la
zono Nord-Germanio kiel la unikan lokan lingvon.

De Tuunkruper (The Wren)

a Low Saxon (Low German) folktale in various orthographies with
translations into other dialects and languages

Japanese Translation

by Reinhard F. Hahn, Seattle, USA, and Tomoko Kurata Gautier (蔵田智
子), Chatillon, France

[4]<http://www.sassisch.net/rhahn/low-saxon/japan.htm>

Ainu Translation (Japan)

by YOKOYAMA Hiroyuki, Hokkaido, Japan

Esperanto Translation (Japan)

by YOKOYAMA Hiroyuki, Hokkaido, Japan, and HOŌIDA Acusi, Hokkaido,
Japan

[5]目次に戻る

[6]ホームページに戻る

参照

1. <http://sapporo.cool.ne.jp/kumanesir/index.html>
2. <file:///localhost/home/yanok/sxw/ATkana.htm>
3. <http://www.sassisch.net/rhahn/low-saxon/ls-story.html>
4. <http://www.sassisch.net/rhahn/low-saxon/japan.htm>
5. <file:///localhost/home/yanok/sxw/ATkana.htm>
6. <http://sapporo.cool.ne.jp/kumanesir/index.html>